

仁王門後方の銅像

成田山新勝寺仁王門をくぐると、太鼓橋が架かった仁王池があります。この池は、「放生池（ほうじょうち：放生は捕らえた生物を逃すという意味）」として、生物の命をいとおしむ不殺生を教えています。池の中にある岩の上には沢山の亀が気持ち良さそうに甲羅干しをしています。中には甲羅に年号と放生した者の名を記した亀がいるそうです。長寿の象徴と言われる亀を寄進している様子が思い浮かびます。これは FEEL 成田の記述であるが、現在は年号を記した亀はいません。しかしこれを読んで真似をした人がいます。亀の甲羅を真っ赤に塗り白いペンキで「修」と書かれています。御自分の名前でしょうか？

仁王橋から右上を見ると不動明王立像があります、**五代目尾上菊五郎の奉納**と伝えられています。仁王池に架かる太鼓橋を渡ると、本堂に至る石段となります。**石段の一番上には、明治 26 年に [両童子講] が奉納した、矜羯 羅童子像（右側）と制多迦童子（左側）が配されています。**

この両童子は、不動明王の脇侍であり、仏像や仏画において三尊型式の場合は不動明王を中心として左右に配置されている童子の像が多く見られます。石段脇に建つ両童子は、大本堂内の不動明王の脇侍として奉納されたのでしょうか？



制多迦童子（左側）



矜羯 羅童子像（右側）



不動明王の銅像は、五代目尾上菊五郎の奉納
しかし周りには、何も刻まれていない。



この様にペンキで「修」と書かれた亀